

市町村合併を考える

市町村合併に関連する用語や手続き、研究会の調査状況などをシリーズで掲載します。

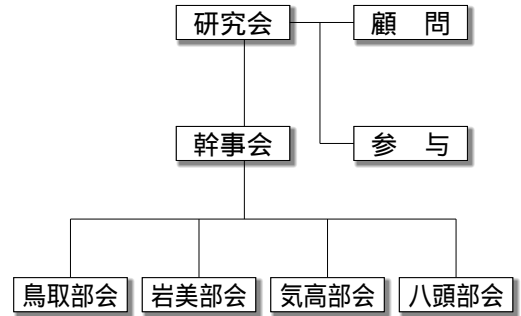
今、なぜ市町村合併か

市町村を取り巻く情勢が大きく変化しています。特に、「地方分権の推進」、「少子高齢化社会の進展」、「国・地方を含めた厳しい財政状況」、「増大する広域的な行政需要」などへの対応が、課題となっ



第1回研究会のようす

研究会の組織図



ています。そして、その解決のためには行財政の規模を拡大・強化し、住民サービスの水準の維持・向上を図ることが必要との考えから、合併についての議論が始まっています。しかし、あくまで市町村合併は市町村が自主的に考え、進めるべき問題です。地域の将来や住民生活に関わる重要なことですから、住民のみならずの十分な議論や理解が必要とす。

東部地域十五市町村で研究会を発足

国は、平成十一年七月に「市町村の合併の特例に関する

今後の研究会のスケジュール

時期	会議など
H13年 5月11日	研究会の開催
5月～11月	幹事会の開催 各部会の開催 各部会で調査・研究
H14年 1月	研究会の開催
2月	シンポジウムの開催

法律」を改正し、市町村合併を推進しています。鳥取県では、平成十二年十二月に「市町村合併についての考え方」を策定し、合併パターン例や支援策を公表しました。東部十五市町村では、「鳥取東部地域における市町村合併に係る研究会」を設立しました。合併の意義、合併後のメリット・デメリットなどを調査・研究し、これらの結果を住民のみなさんに公表し、一緒に考えていただくような活動を進めています。

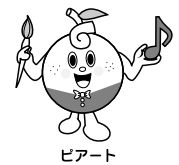
国民文化祭・とっとり 2002

夢フェスタとっとり通信



今回は、国民文化祭への想いを国民文化祭鳥取市実行委員会副会長の芦村登志雄（鳥取市文化団体協議会会長）さんに聞きました。

国民文化祭鳥取 2002 を来年に控えて



国民文化祭は、「国民のすべてが文化活動に参加し、活動を通して生きる喜びを共有しよう」というねらいで、昭和61年から始まりました。

昨年の広島大会では、世界遺産の厳島神社や原爆ドームを舞台にして、その意義を多彩な芸術表現で問いかけるものや、神楽・田植え踊りなどの伝統芸能をアピールするもの、お好み焼きや日本酒などに代表される広島の食文化に関するものなど、広島の魅力が十二分に発揮された見事な祭典でした。

そして、その国民文化祭が来年10月12日から11月4日まで鳥取県で開催されます。テーマは「ふるさとふれあい夢づくり」。この芸術・文化の祭典に全国各地から2万5千人の出演者が集い、また、県内外からの観客は80万人にのぼると見込まれています。

この文化祭を成功に導くのは、私たち市民だといっても過言ではありません。本番まであと1年。「文化都市鳥取」「人情あふれる鳥取」をアピールするため、文化団体の研さんのもとより、みんなで温かい歓迎、身近な環境美化などの行動をおこし、21世紀の新しい文化創造に貢献できる喜びを分かち合いたいものです。